

死亡確認書

死者姓名		出生年月日		籍貫	
[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
職業		死因		死亡時間	
[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
死後處理		火葬		土葬	
[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
證明人		證明日期		證明地點	
[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
其他事項		備註		備註	
[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	

此項證明係由死者家屬或親友提出，經本機關核對無誤，特此證明。
 中華民國三十八年二月五日
 死者姓名：[Redacted]
 出生年月日：[Redacted]
 籍貫：[Redacted]
 職業：[Redacted]
 死因：[Redacted]
 死亡時間：[Redacted]
 死後處理：[Redacted]
 證明人：[Redacted]
 證明日期：[Redacted]
 證明地點：[Redacted]



11-11

死亡事實(現認)證明書

本籍地

現住所

本籍地ニ同シ

所屬部隊 武蔵第一〇六九部隊

徴集年 昭一〇

官等級 陸軍准尉

氏名

有ノ著昭和二十年八月十六日 時

分死ニ於テマシヤニ依リ戦傷

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和三十一年十二月二十五日

所屬部隊 武蔵第一〇六九部隊

職名 兵

官等級 陸軍准尉

氏名

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シアルモノハ詳記ス

二、職名ハ中・小隊長、砲手、操縦手等ト詳記ス

36-11

死亡者現狀證明書

昭和22年8月20日

所屬部隊 陸國有兵隊 航空隊司令部 航空隊司令部 航空隊司令部

本籍地

役職

軍階

死年月日時刻

死因

發覺病傷年月日

現住所

遺骨遺留品の有無

所屬部隊

官階

生年月日

現住所

軍階

死年月日時刻

死因

發覺病傷年月日

現住所

遺骨遺留品の有無

所屬部隊

官階

生年月日

現住所

軍階

死年月日時刻

死因

發覺病傷年月日

現住所

遺骨遺留品の有無

所屬部隊

官階

生年月日

現住所

軍階

死年月日時刻

死因

發覺病傷年月日

現住所

遺骨遺留品の有無

所屬部隊

官階

生年月日

現住所

軍階

死年月日時刻

死因

發覺病傷年月日

現住所

遺骨遺留品の有無

所屬部隊

官階

生年月日

現住所

軍階

死年月日時刻

死因

發覺病傷年月日

現住所

遺骨遺留品の有無

所屬部隊

官階

生年月日

現住所

軍階

死年月日時刻

死因

發覺病傷年月日

現住所

遺骨遺留品の有無

所屬部隊

官階

生年月日

現住所

軍階

死年月日時刻

死因

發覺病傷年月日

現住所

遺骨遺留品の有無

所屬部隊

官階

生年月日

現住所

事實證明書

本籍地
現住地
所屬部隊

右同
第十師
戰地勤報隊
（或第八九六部隊）
徵集年昭聖年役種甲種兵種步兵官等

陸軍軍曹一等級

留年相當者庄并

續柄父氏名

戰地勤報隊
戰地勤報隊
戰地勤報隊

昭和十九年六月十日（推定）

昭和十九年九月十日（推定）

電波探知機使用言
警戒小隊、小隊司令所之於

戰地勤報隊
戰地勤報隊
戰地勤報隊

小隊長、補佐役

戰地勤報隊
戰地勤報隊
戰地勤報隊

昭和十九年八月一日

10-16

姓名(愛称)	生年月日	死年月日	死場所	死因	死時状況	戒ル可ク詳細ニ
体分ミ 歩行困難 高熱 曾定時刻ニ終生	昭和二十一年八月十八日(推定)		ルソン島 ラグナワ 山サマタリ山中	戦病死	横ニテマ、二三日経過 食慾不振 下痢 顔今ミ	薬品ニテ治療セタマ、ツ、甲斐ナク急死

右證明ス

昭和二十一年九月十一日

本籍

所屬部隊

陸軍 戦術中尉 氏名 威一八九一六部隊

右證明ス

昭和二十一年九月十六日

10-17

本籍地

現認(死亡)証明書

昭和 年 月 日

地方世話部

所属部隊 固有省名 千航測隊 通稱 島根道威を来る部五五五隊

年集 昭一九 現 兵 飛 信 級等官 前亡死 兵長 伍長 氏 生年月日 年 月 日生

死亡年月日時 昭和 年 月 日 午後 時 分 死亡場所 比島ネグロス島

死亡原因 戦病死 傷病名 脚気

遺品 遺骨 遺留品 有無

死亡状況 昭和 年 月 日 昭和 年 月 日 准士官以上 任官年月日

右證明候也

昭和 年 月 日

所屬部隊 千航測隊 現住所 官等職氏名印

殿

9-12

故陸軍部長

戦死前後之状況

昭和陸軍省より、ニラ東方據点より、陣地ニ於テ予、小隊ニ編入セラレタルヲ以テ、
第三分隊長ヲ命シ兩後線より戦斗ニ参加シ克ク其分ヲ完遂セラルシトハ
十八日、陣地ニ於テ壯烈ナル戦死。遂テラルル。君ハ從軍以來實
然ニテ寡黙、不言實行。以テ部下ヲ指導セシタリ。戦々南風、彼方ニ多
部トテ失ヒタルハ戦ノ常トハ謂ハ御遺族ニ申渡シタルヲ終戦後、今日
ニ於テ余ヲ申上ル可キ詞モ無シ以下前線ノ状況左ノ如シ
自四月八日、五月十九日間前線ノ陣地ニ於テ、赤坂大ニ月上ヨリ我カ陣地
ニ對スル敵ノ砲撃撃モ本期間ニ至リ、愈々激烈ナル損害多ク、為ニ苦
戦ノ状態ニシテ小隊ノ兵力亦少ク、一ツ失フニ至リ此ノ時我軍飛
行機ノ来着ヲ待ツマタ、シテ、敵ニ来スル斯ノ如ク死傷甚ダシク
陣地ノ保衛困難トナリタリ。君ノ分隊亦其數ヲ失ヒタルモ士氣
旺盛ニシテ五月十九日夜予ト共ニ、敵ノ陣地ニ侵襲スルニ至リ陣地後

食料竟ノ如クニナラズ之カ獲得ニハ金力ヲ傾ケタルモ遺藏ナガラ
 死者ヲ發見スルノ状態ナキハ八月ハナリタルモ遠ク密林中ノミトナ
 秋ノモ不知ル狀況ナリ偶ハ八月十二日食料獲得爲旧彈地ノ附近ニ
 至ルベク[]君ヲ伴ヒテ予以下名ヲ編成シテ旧彈地ニ向テ此時舊彈地ハ
 既に米澤古領シテ[]軍被覆中ニ在リ汗動困難ナリ之旧彈地附近
 ニ設置セル食料(米)入手ニサレハ總ノ食料方無キヲ以テテ同日敵中ヲ
 突破シ同夜旧彈地ニ潜入シ同線友方ニテ[]。線内ニテ[]結
 明ニハ八月十八日早朝敵軍食料搜索ニ終行動ヲ開始シ敵ノ要兵ヲ古領
 戒中ナリニテ以テ極力企圖ヲ執達シ前進中十四時頃旧彈地森林通過中
 遂ニ敵ノ察見スルトコトナリ一斉射撃ヲ受ケタルヲ以テ直ニ舊彈地
 ルモ十四時十五頃敵ノ銃火ヲ獲用銃彈ハ[]。胸部及腹部ヲ
 貫通シ強ニ壯烈ナル戦死スル。遂ニ[]。時ニ至リ

昭和二十年八月十一日

現忍考

ハ[]

殿

五

卷之五

1

謝同署

王月吉

一 病礼

一 日時

一 場新

一 醫

確認

元陸軍兵長

昭和五年一月廿一日

北島出んしん(ア)かす(チ)森山中

昭和五年一月

元陸軍兵長

10-11

證明書

存籍地

現任所右

氏名

所屬部隊

官等級

一級係役連長

一死亡年月日

一死亡場所

一死亡原因

一死因事實及心傷者係何年何月

現狀

陸軍曹長
連軍士
昭和三年八月二十日
比島呂宋島中北部村

戰死

昭和三年八月二十日
比島呂宋島中北部村
戰死

11-85

५३६

年 月 日生

13

五言 病无怕死心

九、其、他（上陸地ニ於テ死シタル者ノ被弔者甲立方、却取渡登陸班）申立済ナレバ上陸年月日及上陸地
等ヲ整理シメタ。整理決定シ又ハ不明者起入）
昭和二〇・一〇・七
名付屋

戦死者トノ續柄 又

氏名

陽曆一九二一年五月二日

豐死者ノ關係 可成キ本一現

所屬部隊名 鐵五四四七部隊
兵種 輜重官 警備隊 伍長

氏名

左側遠方より證明す

圖 11-1-10 土(州)土(區)土(區)



状況不明者の資料面

本籍地

身長

所属部隊 固有名建築勤務第三中隊

通稱號 威第四八九部隊

第三R.H.に於て兵站参謀部、建築作業中マラリヤト

罹り八月二十五日死す

遺骸は戦死の一緒に埋葬す 遺留品なし

威第四八九部隊

上等兵

死亡事實(現認)證明書

姓名

現住所 本籍地 同

所属部隊 陸軍第一〇〇〇部隊

徵集年

官等級
氏名

右ノ者昭和三十二年八月三十一日十四時

ヲ分ルシニ於テ亦前ニ依リ戦傷

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和三十二年一月十四日

所属部隊

職名

官等級 陸軍員

氏名

注 一、死亡地點、受傷部位、病名等列シアルモノハ詳記ス

二、職名ハ中・小隊長・砲手・探検手等ト詳記ス

(5-1)

戦歿者確認(證明)書

- 一、死歿者所屬部隊名(通稱) 〇〇〇〇部隊
- 二、徴集年 昭和十五年 役種 方一補兵 兵種 兵隊
- 三、官給(死歿前) 〇〇〇〇 (死歿後)
- 一、氏名 〇〇〇〇
- 二、死歿場所 〇〇〇〇
- 三、死亡区分並ニ事由 〇〇〇〇
- 一、死歿年月日時 昭和〇〇年〇〇月〇〇日 〇時
- 二、死歿者本籍地留守擔當者 〇〇〇〇

右確認(證明)ス

昭和〇〇年〇月〇日

元所屬部隊名 〇〇〇〇部隊
現住所 〇〇〇〇
元官等 〇〇〇〇
氏名印 〇〇〇〇

註 死亡事由、場所ハナルベククワンク特ニ註明後ノ死亡ハ昭和〇〇年〇〇月〇〇日前後ヲクワンク知ラセ下サシ

宛 先

地方世話部慰恤係

戦歿者確認(證明)書

- 一、死歿者所屬部隊名(通稱) 第十四軍野戦歩兵隊
- 一、死歿年 昭和二十一年八月一日
- 一、官階(死歿前) 陸軍上等兵
- 一、氏名 [Redacted]
- 一、死歿場所(地) 本市北百十番地(東通街)トコロ(部) 陸軍
- 一、死亡区分(事由) 戦死(戦死) 戦死(戦死)
- 一、死歿年月日時 昭和二十一年八月一日 時
- 一、死歿者本籍地(留守担当) [Redacted]

右確認(證明)ス

昭和二十一年四月十五日

元所屬部隊名 本市北百十番地(東通街)トコロ(部) 陸軍
 現住所 [Redacted]
 元官階 兵
 氏名 印 [Redacted]

註 死亡事由、場所ハナルベククシテ特ニ終戦後ノ死亡ハ明ニ生死不明ニテシタ者ハソノ前後ヲ
 クラシク告知ラセ下サイ

地方世話部 関係係

昭示年刊目錄

103-10

現龍登明

本籍地

所屬部

陸軍軍人

死後

年 月 日 氏名

生

一 役種 立種 徵集年

一 死 七 年 月 日 時刻

一 死 七 場 所

一 死 七 合

昭和二十年八月二十日午後一時
北へ向て歩行中、敵機に突如として襲撃を受け、
戦死した。

一 死 七 合

一 死 七 合

一 死 七 合

有

死後

一 遺族 現 住 所

本籍地

石 川 縣 守 山 市 大 崎 町

現 住 所

昭和二十年八月二十日

現 住 所

昭和二十年八月二十日



20

現認證明書

比島派遣隊第一五七部隊

陸軍少長

右者昭和三十年八月三日

於于

現

昭和三十年八月三日

現認者元

第一五七部隊

氏名

現認證明書

比島派遣隊第一五七部隊

陸軍少長

右者昭和三十年八月三日

於于

現

昭和三十年八月三日

現認者元

第一五七部隊

氏名

現認證明書

本籍地

所屬部隊第一〇二師團輜重隊

(通称號) 威一六九八部隊

徵集年四八

昭和三十九年八月十五日

死亡年月日

昭和三十九年八月十五日

死亡場所

オグロス島バゴド

死亡原因

砲撃破片創

死亡状況 砲撃により両腕胸腹部に受傷、自隊に收容せられ死亡す

右正に現認し證明す

昭和 三十九年 八月 十五日

現認者

所屬部隊(通称號)第一〇二師團輜重隊威一六九八部隊

現住所

旧職官階級氏名(印) 陸軍少佐

103-11

本籍

一等兵

1

張子厚

傷寒名

一

卷之五

右證

光緒二十五年四月七日

降虜兵廬旁立木數段

榮慶失調

赤痢

34

壬午年正月十五日
壬午年正月十五日



戰時死亡現認證明書

官氏名印	現認者所屬	受傷(罹病)			勤務ノ概要	内地港灣出發年月日 戰地到着年月日	亡		死		留守擔當者住所氏名	官等級氏名	役種徵集年	所屬部隊(固有名稱)	本籍地	區分	事
		傷(病)名	場所	年月日時			傷(病)名	場所	年月日及區分	年月日及區分							
比島派遣地立歩兵第三五八大隊 陸軍少尉	昭和二十一年十月十一日 上陸復員者				小隊長	昭和十九年八月十七日門司發同年十月十二日マニラ上陸	斬込ノタメ	比島ルソン島 ラロス方面	昭和二十一年八月二十五日	時	分戰(傷病)死、公務死、死	死亡前ノ官等級 陸軍少尉 死亡後ノ官等級 陸軍少尉	現役十八年徵集	比島派遣地立歩兵第三五八大隊			

00五五一 成(通)		所屬部隊	
聯合司令部軍醫處四科(通)		時日場所	
20.8.26 山中 東方 イラン 北野山 西島		死亡	
死病 戰		區分事由	
學養 欠調			
リ ア		(居留南) 骨達	
大 曜		役 後 役 後 役 後	
中		前七死 官事級	
(暗)		後七死	
氏 リ		生年 月 日	
名 カナ			
本籍地		留學相當者現住所	
(續柄) 氏		名	

1729

一、所居部局は通称固有部局とす。判明程度に記入のこと
ニ、元々棚田出来得る限り詳細に特に事由傷病名発病(受傷)入院年月日入院病院名及其の他参考資料等併
せ記入のこと。記事多き場合は附箋添付記入のこと
三、遺骨(遺留品)機は有無。有る場合は何処にありや(現地と陸地支局)留年宅等記入のこと
四、埋葬所を明記せよこと
五、同一人に対し二部調製のこと

右實錄寸_下 第三卷 南宮軍總司令 許敬忠補芝石關送 瑞璋官在

現任所
所屬部隊第四航空軍司令部
（元支那軍總司令部秘書長）
秘書長

官昇部氏而軍臣少尉

上陸地名 堅彦保 上陸月日 昭和21.9.10
上陸地支局に於て連絡済む否也 慎

録

死亡事實(現認)證明書

現住所 本籍地ニ同シ

所屬部隊 憲兵第二六九部隊

徵集年 昭二八 氏名 官等級 陸軍上等兵

右ノ者昭和二十年八月二十六日 時
分此島ニ於テマダリヤニ依リ戰傷

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十一年十二月三十一日
所屬部隊 憲兵第三五十六大隊 職名 兵隊

官等級 陸軍上等兵

氏名

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シタルモノハ詳記ス
二、職名ハ中、小隊長、砲手、操縦手等ハ詳記ス

38-11

現認證明書

地方世話部

所屬部隊

秋田第一師団 (混成歩兵隊)

本籍地

役職

補充兵

死階級

一兵

死後階級

氏名

[Redacted Name]

死亡年月日時

昭和20年8月27日

時分

死亡場所

セグ島八五高地

者

死亡原因

戦病死

死亡事由

マラリヤ兼腸炎

留守宅住所氏名

[Redacted Address]

親類要

[Redacted Family Info]

死時状況

1. セグ島八五高地に上陸以来、身体不振を訴へ、時折マラリヤ及び下痢を起し、陣地工兵作業に従事せず、食糧等不足を訴へ、マラリヤを繰り返す。遂に20日マラリヤ兼腸炎を起す。

死者の係属

補充要員として入隊以来、同一部隊に属し、同人と起居を共にし、戦死を遂げ、遺体は発見されず。

右現認證明致します

昭和22年1月27日

現認者

本籍 現住所

所屬部隊 秋田第一師団 (混成歩兵隊)

官等氏名 陸軍上等兵

[Redacted Signature]

次川

10-1

戦歿者確認(證明)書

マ 死歿者所属部隊名(通稱號) 第十四方面軍野戦自動車廠(威)。六八一部隊

一、徴集年 役種 兵種

一、官 等(死歿前) 上等兵 (死歿後)

一、氏 名 年 月 日生

一、死歿場所 北部ルン島キアレ地方入井

一、死亡區分或ニ事由 戦死

一、死歿年月日時 昭和二十年八月二十七日

一、死歿者本籍地留守擔當者

右確認(證明)ス

昭和 年 月 日

元所属部隊 第十四方面軍野戦自動車廠

現住所

元官等級

氏名印

(註) 死亡事由、場所ハナルベクワシタ特ニ暴戦後ノ死ニ關シニ、生死不明ニナラザ諸ハソノ前後ヲワシタテ知ラセ下シ

宛先

地方世話部認定係

35-10

死之確認証

氏名

部隊名(固有)

(通稱)

死年月日

場所

病名

當時階級

南方第十二陸軍病院

威第一〇六一部隊

昭和三年八月五日午前八時

北部ルン島第二〇五チ

マリア 兼 脚気

陸軍衛生上等兵

右ニヨリ死之ヲ証明ス

威第一〇六一部隊

元陸軍衛生兵長

157-10

死亡現証(確証)證明書

本籍地
所屬部隊
陸軍(在之前)
陸軍一等兵
氏名

一死亡年月日時 醫平年八月廿日 時分

一、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。

一死之區分

傷風名
靈驗神效

遺光の
あり

六死之當時の状況

第三、小、中、大方面跃进中，故，集中砲火，攻其弱点。

方現部(確記)す

昭平年一月平曰

碑記
所屬
碑記
所屬

陸軍部 陸軍部 陸軍部



戦死確認書

本籍

戦死当時住所

氏名

当時 四十一才

右の者は大東亜戦争中に在留現地比律賓群島ミンダナオ島
ダバオ市に於て日本陸軍砲兵部隊の軍属として採用せられ
官符
送にて従軍中同市タンシンに於て地雷爆発の戦死を以て

(昭和二十年八月二十日頃と記憶す)

私は本人と同県出身者として兼ねてより親交あり且当時附近に
居り其の戦死を確認した者であります
右の通り証明します

昭和二十年九月三日

278-14

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and a small dark stain near the bottom center. The right edge of the page shows the binding structure, including a small circular metal fastener or clip.

死亡事實(現認)證明書

本籍地

現住所

所屬部隊

旭二八部隊本部

徴集年地

官等級
氏名

右ノ者昭和貳拾年八月二十日午前九時

分タキヤニ於テマラリヤニ依リ戰傷

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和貳拾年九月六日

所屬部隊

旭二八部隊本部

官等級

陸軍少佐

氏名

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シアルモノハ詳記ス

二、地名ハ中・小隊長、砲手、操縦手等ト詳記ス

48-11

死亡事實(現認)証明書

本郷地 [redacted]
現在所 本 月

所屬部隊 南方軍總司令部
員 集 姓 昭 才 二 氏 官 等 級 陸軍一等兵
氏 名 [redacted]

右ノ者昭和二十年八月二十七日 時
分 [redacted] 於テマアリヤニ依リ戦傷
痾死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十一年二月二十一日

所屬部隊 陸軍九三戦 氏 名 [redacted]
官 等 級 陸軍一等兵
氏 名 [redacted]

注意 一、死土地點、受傷部位、病名等判明シアルモノハ詳記ス
二、戦名ハ中、小隊長、砲手、操縦手等ト詳記ス

51-10

氏名	南方勇士陸軍病院	本
通	以島道旁一〇二番隊	年 月 日
職名	陸軍看護婦	年 月 日
生年月日	昭和三十一年八月	年 月 日
死	年月日時 昭和三十一年八月	年 月 日
死	場所 ルニ島 トツカン	年 月 日
死	原因 戦病死	年 月 日
死	死	年 月 日
死	死	年 月 日
死	死	年 月 日
死	死	年 月 日

死亡證明書

所屬部隊

照本行

決戰船

通稱

雙一人入

役種

兵

死上原因

官第

姓名

股

兵

在籍地

[Redacted]

管內親族

[Redacted]

管外親族

[Redacted]

死後處理

20

死後場所

[Redacted]

死後處理

無

死後處理

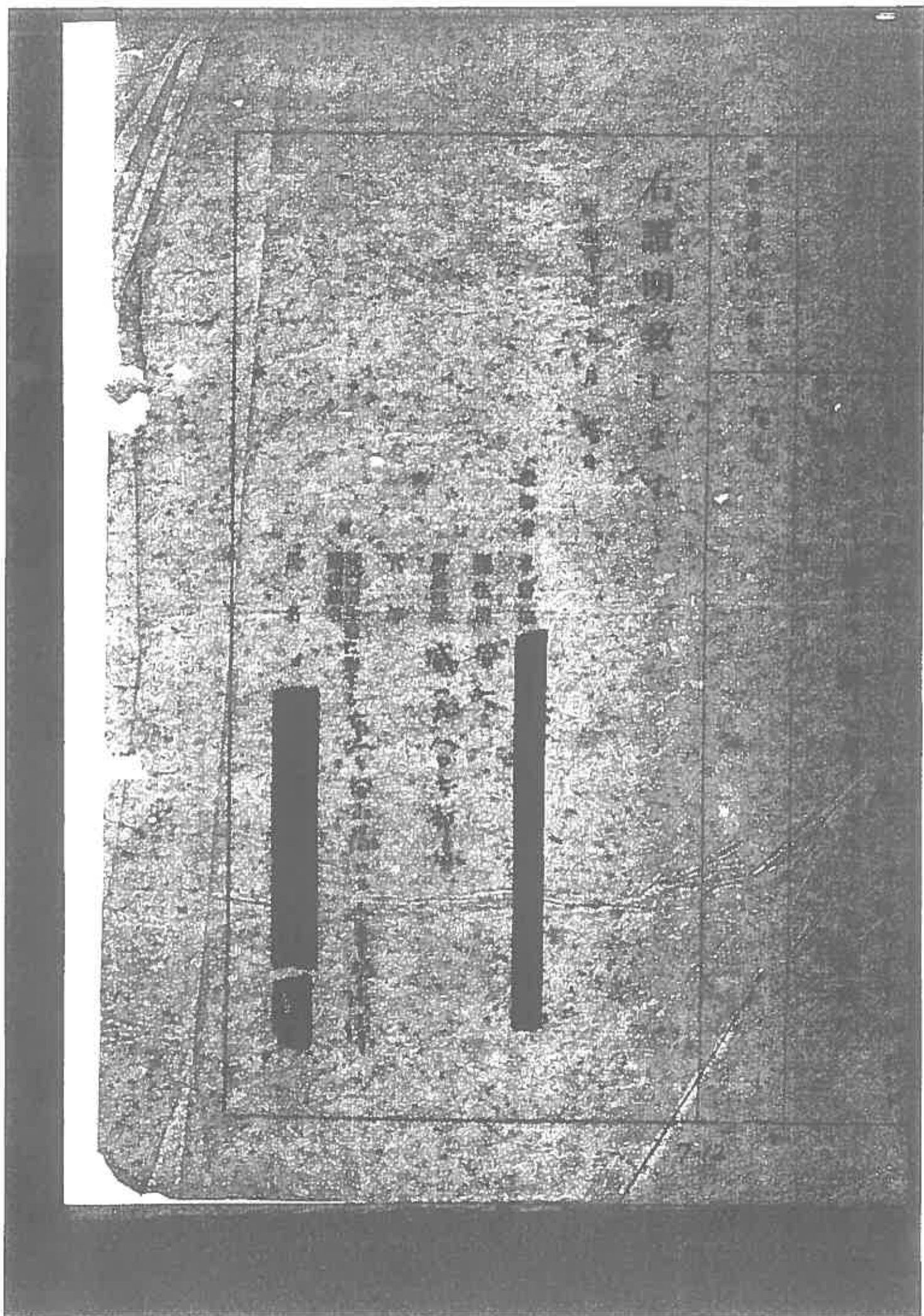
無

死後處理

無

死後處理

無



昭和二十三年 月 日

地方世話部 死亡者 認定調査票

昭和二十三年 月 日
留守 業務 日割製

所屬部隊名 固有名 野重十聯隊 通稱名 三七七〇

本籍地

年 級 服 役 補 兵 野重 官 防上死 上 後亡死 氏 名 氏 名 年 月 日 生

死亡年月日時

昭和二十三年八月十四日

死亡場所

比島ルン島

死亡原因

戦病死

傷病名

コレラや嘔吐

発病年月日不明

現住所

同本籍地

籍

柄

妻

氏 名

認定

遺骨状況

現地埋葬

無シ

右現認可

野重第十聯隊

陸軍伍長

(印)

判 決

経手人 資料 資料 資料

官 給 級 職

印 檢 点

認定進級告知記録

做 抹 消 ア

名 籍 所 址

停 小 名 簿 頁

戦死証明書

一、戦死者本籍地

戸主名額納

戸主 幸人

氏名

年 月 日生

二、所属部隊名

三、戦死者教養年 昭和十四年 役種 予役 兵種 歩兵 死亡 昭和十四年 月 日

四、戦死年月日時刻及場所 昭和十四年八月三日 三ノ宮市島司谷川河合

五、戦死現認ノ程度 推定

六、遺骨歸還ノ有無 無

七、戦死當時ノ状況ノ概要 戦線本部より連絡無き中、突下四名、別記日時場所
山登ル者今更九月、音軍司令官より、連絡無き終戦ヲ知りタルノ
次、山間僻地ニ在リ、連絡無きト不能、當時ノ状況ヲ推定ス、
戦死ナルト推定ス

八、死亡區分 戦死 事由 詳 發病年月日 昭和 年 月 日

九、其ノ他 (上陸地、戦死に當リ、中、不戦死に當リ、) 申立者ノ上陸年月日及上陸地

一〇、遺族ノ現住所

戦死者トノ遺族 妻

氏名

右ノ通り戦死セラルタルコトヲ證明候也

昭和十四年 月 日

證明者住所

戦死者トノ關係

所属部隊名

約一〇〇四部隊
兵種 歩兵 官等級 陸軍 少佐

氏名

市町村長證明箇所

73-10

1745

昭和二十年八月二十日

一、死歿者所屬部隊名(通稱號) 泉第百三十一師団 (中野重光一少佐)

一、徵集年 一 役種 隊中 兵種 衛生隊

一、官等(死歿前) 中尉 死歿後

一、氏名 [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日生

一、死歿場所 [Redacted] 死歿原因 [Redacted] 死歿原因 [Redacted]

一、死亡區分並ニ事由 戦死と推定(合算)

一、死歿年月日時 昭和二十年八月二十日 午後四時

一、死歿者本籍地留守擔當者 [Redacted]

右確認(證明)ス

昭和二十年八月二十日 元所屬部隊名 泉第百三十一師団

現住所 [Redacted]

元官等 中尉

氏名 印 [Redacted]

註 死亡事由、場所ハナルベククワシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ナリトタテ者ハソノ前後ヲクワシクオ知ラセ下サイ

宛 先

遺族関係

邦 國

[illegible]

所無圖

收 中 天

昭和33年度貸倒率18.03%

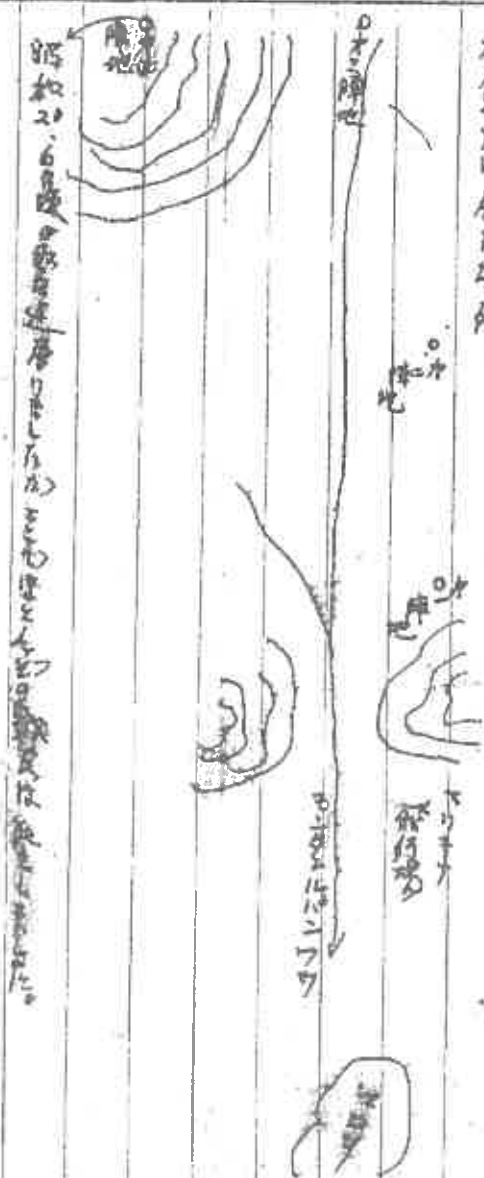
100

疾死に代るべし。

あつたに三三に到着

震

本人と共に居る場所



区别

第 ④ 號 中 取 票 號
昭和38年度登錄第1888号

入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数	入死 者之 数
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死
死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死	死

7-13

事

本籍地

現住所

所屬部隊

馬尼刺陸軍航空廠第一修理廠
比島派遣隊第一五三二部隊

昭和一二 以陸一補 陸步兵

一等兵
上等兵

所屬部隊

本籍地同

事

昭和一九五八 門司港

昭和一九八一五

概要

自昭和一九八一六 馬尼刺陸軍航空廠第一修理廠 勤務 加入

留學公費 50143 昭和五十七年四月

發病(受傷)年月日 昭和ニ〇、八、一八

發病(受傷)場所 比島「ミンダナオ」島「バレンシヤ」東南方早軒ノ地矣

病名(受傷部) 心臟 肝氣

發病(受傷)時状況 船上陸より不眠不休以テ部隊ヲ慰勞シ行動ヲナス又糧食不足ノ爲強度ノ疲勞及不養生ノ爲病ヲ發セルト認ム

元二十月日 昭和ニ〇、九、一、一二〇〇

場所 比島「ミンダナオ」島「バレンシヤ」東南方三十五軒ノ地矣

戦痛此

死亡時状況

敵「コラバル」ニ上陸スルヨリ五月三日「ラングエリ」河ヲ渡リ「バレンシヤ」ノ東南方ノ山中ニ入ル「バレンシヤ」東南方三十五軒ノ地矣ニ在リ八月十日同地ニ發部隊本部「追及ス八月十六日部隊本部「早軒」ヨリ日本海方ニ知ル能ハズ部隊ハ本軍ノ指定セル「バレンシヤ」ニ向ヒ前進シテ同日「バレンシヤ」ニ至リテ死セリ

右證明ス

昭和三十一年 四月一日

本籍地

所屬部隊 馬尼刺陸軍 航空隊 修理廠 第二分廠

階級 陸軍准尉

氏名

戦死証明書

一、戦死者本籍地

戸主名 姓 戸主

長男

氏名

昭和 年 月 日生

83-11

二、所属部隊名

第 陸軍 第 師 第 旅 第 連 隊

三、戦死者没年 昭和 年 月 日

四、戦死年月日時時刻及場所 昭和三十一年九月一日午前十時 西ノ三ノ村山中

五、戦死現認ノ程度 焼死(死体未発見)

六、遺骨歸還ノ有無 遺骨未歸還

七、戦死當時ノ状況ノ概要 村に焼死、行かぬ自決

八、死亡原因 戦死 昭和三十一年九月一日

九、其ノ他 戦死ノ原因ニ関スル事項(戦死ノ原因ニ関スル事項) 昭和三十一年九月一日

一〇、遺族ノ現在所

戦死者ノ親類 父

氏名

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和三十一年九月一日

証明者住所

戦死者ノ関係

所属部隊名

兵種

官等級陸軍

陸軍一等兵

氏名

市町市長證明所

右相違上主長和附入

昭和三十一年九月一日

院病站兵九十三百第

七六七九威

衛 予

昭 々

長 兵

昭和二十二年

二月二十日

第百三十九兵站病院

衛生部長

[Redacted]

[Redacted]

姓名	職名	階級	年齢	出身	現任	備考
佐 上	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	
佐 田	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	
佐 田	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	
佐 田	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	
佐 田	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	
佐 田	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	
佐 田	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	
佐 田	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	
佐 田	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	
佐 田	衛生部長	大尉	41	東京府	在任	

[illegible]

○本條事項中印明するものは各症にて朱淋するを云

昭和二十二年 月 日 世 第 (號) 民生部市立醫院



死亡者調査表

氏名	年齢	性別	職業	住所	死亡年月日	死亡場所	死亡原因	調査者
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎
佐々木 三郎	13	男	学生	佐々木町	昭和19年10月10日	佐々木町	戦死	佐々木 三郎

佐々木 三郎 昭和19年10月10日 佐々木町 戦死

說)

者製訓

民生部第一世話

本表の中燒印の細い糸は第一世時盛にて記入する。上
記の姓京並に海邊柳は葵兩にありて、永正の注をよ
不備事項中判明しあるものは各班に×を記する。こ
○○○

昭和四年製

固有名
第一護
南稱鼎
威一之
九三
劫

死亡場所

天竺山

庫新地

死亡年月日

昭和二十年九月三日五時

氏名

死亡区分

野天

॥ अथ विष्णु स्तोत्रम् ॥

受傷箇所

頸部量通

死
立
刑
階
級

一筆

[illegible]

由理認現

ヨリ、勲名ノハミヲニ給ヤセシメ一掃シテクニタモヒセムカ重ノ時
ヤミナリ、事々ニ度田ウケリヲ引上ガ結サキヤイモ、因行のニズソコナト敷エテ
引上ガ

一記の載上ノ注禮

一現認事由は詳細に記入す。
一本證明書は三部作製する。
二階級は必ず死亡時に記入する。
三死亡区分、原因、時期、
病発の時、病多發病年月
四死亡場所、死亡区分、
五尸下、搬入、埋葬、火葬、土葬、
六時、地方、職業、年齢、性別、
七備考

時

看 明 證

元所属部隊

職一孝凡三節

本籍地



現住所

卷之四	4
-----	---

隋初氏名

工部

氏名の下に印を押す



戦死確認證明書

本籍地

陸軍上第安

一 昭和三年二月十日マライに於現地召集

同年同月同日馬來派遣岡第九四部隊 部隊 隊配屈

二 昭和三年九月三日マライ半島スゲイバラに附近山林地内に戦死

停戦 命昭和三年八月下旬降下スルヤ日本軍中ノ流言ハ語盛ニシテ

各部隊ハ直屈部隊ヨリ命令 数回ニワタリ変更アリ且又英軍占領

軍被南沖ニ碇泊シタル領ノ上陸準備ニ急ニシテ日本軍ニ盛ニ接収ノ

急ヲ告ガアリ現地軍ノ混乱甚ノ極ニ達シアリシ状況ナリ八月下旬

ヨリ被南島及びプライ附近ニ上陸ヲ開始シ出レ一応日本軍ハ該地附近

ヲ立チカガルト得ス

岡第九四四部隊 部隊本部ハ当時昭南(シンガポール)に駐在シアリ

103-15

無線モ有線モ使用不能ニナリ本部ト連絡ハ絶タレ正メナクモ時
マニヤ地区戦士担任部隊定集團ニ連絡シ、ライ附近ノ陸軍部隊ニ依
依頼シ其ノ指揮ヲ受クル處置ヲナス（駐岡第九四部隊ハ此地ニ於
海上輸送關係仕務ヲ命ぜラレリ） 其中昭南ノ本部ヲ定ニ依頼命令着
定集團（當時ヲテ太子駐屯）ハ昭南ノ岡ヲニ九四部隊ヲ依頼シ、附近
駐屯各機補給部隊ニ行戦後ノ收結命令ヲ發ス。

其ノ命令中ニ現地ニ於テ軍属ヨリ召集サレルモノハ定集團内ノ軍政部
員ト共ニ行動スルモノナレリ（内地ヲ集軍人トニ部分甚々形下ナリ其移
動混亂ヲ言フ） 占領軍ノ上陸ニ衝突危險ヲ配シテ早ク日本軍ヲ
馬來ノ山地ニ集結セシムル觀アリヤ（太子ニ集結ヲ多クモ山地集結地ハト
行軍スルモノ今ニテ想ヘハ随分ノ混雜ナリヤ、時ニ英軍ハ日本軍（野令モ令）ヲ
武装解除シスルハトニ集結命令ヲ發ス、ニアネテヨリ作戰ニ意ヲ盡
其産産ハ、時ハカリコノ混亂移動ニ果シ又人員少數ノ日本軍ノ殺傷ヲナス

昭和二十年九月下旬漸クマライ平原のズレガイハタニ一假キテ作リ集給ヲス

確ク九月二十日過キ頃ト記憶スルガタカ英軍ヨリ日本軍ヲ殺シカヅム林ニ死シ

アリハ英軍ヨリ殺シタル隊員タルトカ判明ス

共產匪賊地ナル故英軍護衛ヲ附スカラ検視セヨトノ命ニヨリ集結集團命ト

英軍ノ意トニヨリ(コノ時英軍ハ印度人ニテ編成サレアリテ仲々親切ナリキ)

自今ト准尉ト三名ニモ死体搜索ニ出ヅ 確カコノ時が昭和二十年九月廿日過

キ頃ト記憶ス マライ平原ノズレガイハタニ飛行場ヨリニテ数キロノズレ林内ニ

死体ヲ発見ス ソノ当時死体ハ腐敗シ誰カ誰カ不名ナリシモ

君ハ先ニ集結移動命令ニヨリ別レシ時自今ノ記念ヨリ所折

シアリ 戦死ヲ確認ス、其ノ後日本軍ノ大部ハシンガポール沖ノ無一人島

レンバンヘ行キ一部ハ馬來地区ニトシテ領軍ノ作業隊ニ残留ス

ホドモハ作業隊ニ残留シ其ノ中ホノミン昭南(ミナホール)ノケツベル

渉外部員トシテトナリ遺骨拾収時ノ准尉ト別レトウキ 戦後マデ別カレ

103-17

（下）内地販賣（米）

名簿等當時の簿封を作成し内地に陸時ニ提出せしむ

九月三日、本人の戦死の確カ九月上旬頃ナルト推定せしナリ

貴課提出の名簿簿ニ照ね二十年九月十五日トアル死体発見當時

又ハ書類作成日ヲ記シタルモノナラン

三、昭和二十年九月三日陸軍上陸兵ヲ命ス

（通）相違ナキトシ証明ス

昭和二十年四月二日

馬場流（岡）第三九四部隊 陸軍大尉

右様と相違なきを證明す

昭和廿八年五月廿九日

世路課長

死亡現認(確認)證明書

本籍地
所属部隊

戦車第三師団車射砲大隊第五隊(要一二三部隊)

階級(前) 陸軍上等兵

氏名

一死亡年月日

昭和三十年九月三日

一死亡場所

フィリピン呂宋島

一死亡原因

戦死

一傷 名

大腿部貫通傷 悪性マラリア併発

一遺骨状況

当時の全隊居場所の由が不明で、状況不明と判明せず

一死後処理状況

部隊は北アモロと口陣地確保を命ぜられ、中隊は敵陣地の襲撃を要し、自中隊は口陣地の確保を命ぜられ、九月三日死亡す。死後処理は同様に要す。要す。要す。要す。

右現認す

現住所

昭和三十三年九月一日

現住所 戦車第三師団司令部 戦車第三師団司令部 戦車第三師団司令部

陸軍中尉

戰歿者確認證明書

一、死者所屬部隊名（通稱號）
威第百六十九部隊

一、徵集年貽和十六年役獲第二國兵發兵種
播重兵

官饒（死後前）——真兵（死後後）

氏名

死後此島エサウ州バラナン

死病(マウリヤ)混合隊に於て東バミヤ地方地内に埋葬す

昭和二十一年九月一日 午後

卷之四

右確認（證明）ス

昭和
年
月
日

元所屬部隊名 威第一六九部隊

現
住
所

元宮等級
聯宜上軍兵

氏名印

死亡事由、場所ハナルベククワシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明確ニ生死不明ニナツタ者ハソノ前後ヲクワシク不知ラセ下サイ

施先

世話部
話部
話部
話部

死亡確認書

所属

部隊

官

氏名 本籍地

留守擔當者

死

亡

現行統制氏名

第四航空 技術
隊司令部 曹長

[Redacted]

全上妻

[Redacted]

年月日 場所 場所 病名
昭和三年 九月五日 敵砲死 出稼所
年九月五日 敵砲死 出稼所

死之理由

遺骨遺留品状況

昭和三年九月より九月に病起し
同病ニシテ死ス(九月五日)

第十四軍司令部 野戰醫院 衛生隊
隊本部ニテ搬行せられた

昭和三年九月十五日

代頭
任所
名

同
目
令
部
別
子

10-12

記	部
加	

報告

事實證明書

本籍地

現任所在同

所屬部隊及馬尼刺陸軍駐紮處長官姓名

比島威第一五三二部隊

與集年昭一二役經補元後共種蠅更官等級

死亡前一等兵
死亡後二等兵

守祖言

續梅父

氏

名

氏名

生年月日

四北港灣尋年月日

昭和十九年六月十四日

戰地到着年月日

昭和十九年七月五日

勤務

昭和十九年五月十五日野戰重砲隊第二連砲兵。同年四月二十日馬尼刺陸軍駐紮處要員。昭和十九年七月十四日馬尼刺陸軍駐紮處第一師團砲兵二分隊。昭和十九年七月十五日馬尼刺陸軍駐紮處第一師團砲兵二分隊。

卒病(受傷)年月日 昭和二十年一月二十四日

卒病(受傷)場所 ミンナオ島ハレンシヤ西方約四十料地長

病名(受傷部位) マラリヤ熱(腸胃熱)

發病(受傷)時状況 敵、空地ヨリスル攻撃激烈ニシテカフルニ食糧危機ニ遭遇シ疲勞困憊、疾ニ速ニ遂ニ病ニ罹ル

死亡年月日 昭和廿年九月七日

死亡場所 ミンナオ島

死亡区分 戦死

死亡時状況 (成)詳細ニ

右證明人

昭和 年 月 日

本籍地

所屬部隊

馬尼ラ陸軍駐在隊(少佐) 馬尼ラ陸軍駐在隊(少佐) 馬尼ラ陸軍駐在隊(少佐)

階級 陸軍准尉

氏名

比島

巡邏

島。三郎國

三郎國

陸軍一等文

右者瑞和二十年九月七日

コリヤ 三郎國

瑞和二十年五月十九日

現認書元

三郎國

現認書元

氏

現認證明書

本籍地

所屬部隊

一死之年月日時

昭和二十年九月八日六時〇〇分

一死亡場所

比島呂宋島名々州呂宋病院（病院名不明）

一死亡原因

痢疾

一傷（病）名

胃腸炎、氣管炎、肺炎

一死亡當時状況

現認人

昭和二十年九月五日

現認者

現任

現任

現任

現任

現認(事實)證明書

83-12

本籍地

所屬部隊 固有名 第七十三聯隊 通稱名

徵集年 昭和二十一年 役種 現供 兵種 歩兵

官等級(昭和二十一年四月一日發令)氏名

月 日生

一、死亡年月日時分 昭和二十年九月八日 時 分

二、死亡區分及傷病名 左胸部重傷(タリヤ、タリ)

三、死亡場所 岐阜県北方町千九千五

四、死亡状況 第四野戦病院中死す

五、遺骨及遺留品の有無 死す前日本人より遺留品として手紙あり

六、死亡に関する書類の有無 なし

右の通り相違ない事を証明する

昭和二十二年三月二九日 元所屬部隊(固有名)第七十三聯隊

(通稱名) 虎牙人五二部隊

現住所 舊職官等氏名

一、死亡者本籍地

二、遺留品者の住所(通稱氏名)

右の通り相違ないことを証明する

昭和二十二年四月四日

縣 市 町 長

6-11

[REDACTED]

馬 知

年 月 日生

本誌

源道經第七部

看視役兵禮中兵死亡前官等發陸軍

张利平九兄台 中郁品学

蘇軾

伏魔

丁亥九月初五日 新嘉坡 大隆律

軍聯、處運、商自部、航二局、航二局。

100

陈元

發售年月日 昭和 年 月 日

「於」死に才量番ニ依リ申立テ、
 御座候所ニ御座候、
 申立候ナレバ上型年月日及上様也

丁巳年

氏名

明候也

五

三

氏名

印

右通，相達也。

現証證明書

本籍地

所屬部隊

一死亡年月日時

一死亡場所

一死亡原因

一傷亡姓名

一死亡當時狀況

昭和三年九月八日
北野の山北野大和村
戦死地
不詳

状況 陸軍病院へ後中胸腹を受傷し死せり

右現証人

昭和三年四月六日

現証者

現証者 元陸軍部隊員
階級 陸軍少佐

[illegible]

新蜀部比島派選軍威五一三新隊

現認證明書

24-10

本籍地

現任所

氏名

所屬部隊

官等級

一徵集後種

一死亡年月日

一死亡場所

一死亡区分

一死亡事由又病名發病年月日

現認事

[Redacted]

[Redacted]

昭和二十一年九月一日生

陸軍少尉

昭和二十一年徵集、一補、輕重兵

昭和二十一年九月九日

埼玉県東武三丁目、毛呂山

戦死

昭和二十一年九月九日、會經軍機

戦死

一遺骨の有無

一遺族現任所續柄氏名

十二

[Redacted]

[Redacted]

右相違

現認者官等級

陸軍少尉 昭和二十一年九月一日

昭和二十一年六月

[Redacted]

現認證明書

29-10

本籍地 [REDACTED]
 現住所 [REDACTED]
 氏名 [REDACTED]
 所屬部隊 陸軍第一師團 第三旅 第三師團 第三師團
 官等 陸軍中將
 一 徵集後檢査 昭和 年 月 日 第一師團 輕重兵
 一 死亡年月日 昭和 年 月 日
 一 死亡場所 此方乃東北三千里 元之山
 一 死亡区分 戦死
 一 死亡事由又、病名 發病年月日 昭和 年 月 日 食糧不足
 現認事 戦死

遺骨の有無 [REDACTED]
 遺族現住所 續病名 [REDACTED]
 右 相違 無 意 之 誤 也
 現認者 會 長 陸軍中將 [REDACTED]
 現 任 陸軍中將 第三師團 第三師團
 明治 三十五年 六月 八日 [REDACTED]

状況不明者の資料届

本籍地

伍長

所属部隊 固有名 建築勤務第三七中隊

通稱 尚武第四八二九部隊

死亡年月日 昭和二十年九月十日 死亡場所 北都呂宋島第二R村

死亡区分 マリヤロイ

不明者と近郷の収遺品と、(西洋カミソリ)持参したるも収容

所収取上テられ遺品日し遺髪日中隊長持参し居るはず

不明者日ハゴウに煙葬した

尚武第四八二九部隊

二年

[illegible]

山公(第一號)

死亡者調查表

昭和二十二年
乙

日期
星期
姓名
性别
年龄
职业
住址
电话



16710

死亡者調査表

昭和二十二年
月
日
調製

60-10

[illegible]

現認者			死者				現認證明書							
職名	所属部隊	現住所	場所	区分	時刻	年	月	日	種別	前官	等級	姓名	通称	所属部隊
自働車修理兵	比奈派遺渡方一〇六八部隊		比島バギラ(山奥)	南米戦死	昭和二十年九月十日 十時〇〇分	昭和二十年九月十日	九月	十日	戦死	不明	不明	姓名	渡方一〇六八部隊	
官等級	上等兵		遺骨の有無	傷病名	受傷年月日	昭和二十年九月十日								
姓名			十											

右の通現認す

昭和二十三年四月廿五日

25. 1. 18

23. 1. 18

13-16

01-671

氏名

年 月 日生

此等子弟團練第一等子弟部隊

氏名

昭和

氏 名

[illegible]

戦死証明書

一、戦死者本籍地

戸主名 横柄

戸主

氏名

年

月

日生

二、所属 昭和 年 月 日

兵種

官等

陸軍

三、戦死者 昭和 年 月 日

兵種

官等

陸軍

四、戦死年月時刻及場所

昭和 年 月 日

五、戦死現認ノ程度

現認

六、遺骨歸還ノ有無

有

七、戦死當時ノ状況ノ概要

昭和 年 月 日

八、死亡原因

戦死

九、其ノ他

昭和 年 月 日

一〇、遺族ノ現住所

昭和 年 月 日

戦死者ノ親類

氏名

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和 年 月 日

証明者住所

戦死者ノ関係

所属部隊名

兵種

官等

陸軍

氏名

市町村長證明箇所

市町村長 横柄 達

印

29-10

現認(事實)證明書

本籍

部隊名 歩歩五四五大隊

二等兵

一死之年月日

昭和五年九月十日

一死之場所

比島カバン部隊上山中

一傷(病)名

マラリア、為栄養失調、依ル

一死之正分

戦病死

一當時状況

終戦、通知を受ケ、山ヲ降ル前日マラリアニ依リ衰弱ヒトシ、其
上食物ヲ為、遂ニ栄養失調、為倒ル

死之通証明ス

昭和五年十月三十日

元根歩五四五大隊 陸軍上等兵

印

死亡確認書

[illegible]

右確認す
昭和三年一月十日

現生名所
死官等
舊所屬部隊
臨時機關銃
三中队



現認証明書

世話録

故

昭和三十一年七月十五日

右記昭和十九年十一月第四四號船舶場司令部竣工要領として
 採用したモンガン工場におき、勸業中昭和三十一年七月十五日
 敵迫撃砲の集中攻撃を受け、負傷（右胸部貫通）治
 療中遂に昭和三十一年九月十日にシナオ島で死亡せり
 右現認す

昭和三十一年十月一日

第五船舶輸送司令印セバ支部がバオチ張以長代印

元陸軍少佐



現認
 籍地
 名
 20
 9
 12
 軍
 14
 12
 島
 戦死
 死亡区分
 死亡理由
 右現認

本籍地
 部隊名
 官等兵名

飛行二六六隊

90-11

現認証
 本籍地
 部隊名 30 FC
 官等氏名
 死亡年月日 20 9 12
 死亡場所 ルソニ島
 死亡区分 戦病死
 死亡理由 アリヤ
 右現認証

本籍地
 部隊名
 官等氏名

飛行二〇〇戦隊

及地保美養老調

92-10

死者事實(現認)證明書

一本以籍地

一現住所

一所属部隊

一徵集年月

一姓名

一出生年月

一死亡年月

昭和二十四年四月

(官三郎和精進司合部)

昭和二十六年

官三郎和精進司合部

九月十一日

昭和二十六年

昭和二十六年

昭和二十二年二月十二日

所属部隊

(陸軍第四師團)

官階 陸軍少佐

氏名

[Redacted Name]

[Redacted Name]

印

[illegible]

現 望 望 明 望

の 考 現 表の準則現認する 官等没収名申	死亡者との関係 戦友	部隊名 通稱 建部 三十七中隊 第四八二部隊	現 在 所 [Redacted]
	遺書、遺言の状況	下し	戦死の状況 戦死の状況 戦死の状況
	戦病死の状況 発病年月日、場所、 病名等を記入する	昭二、頃 発病 (六六) 下し 栄養失調	戦病死の状況 戦病死の状況
	戦死の状況 戦死の状況 戦死の状況	戦死の状況 戦死の状況	戦死の状況 戦死の状況
の 考 亡	死亡した場所	死亡した年月日	死亡した場所 死亡した年月日
	官等氏名	上	官等氏名 上
	部隊名 通稱	建部 三十七中隊 第四八二部隊	部隊名 通稱
	本 籍 地	[Redacted]	本 籍 地

175-11

66-10

事實(現認)證明書

本籍地

現住地

所屬部隊 固有部隊名

通稱 通稱名

官等級氏名(死亡前)

大正二年十一月二十日生

右の者昭和二年九月十四日午後四時 分

病名(マウリヤ)したことを証明する

昭和二年八月十八日

所屬部隊

現住地

死亡者との関係

(舊)職官等級氏名

1572

[illegible]

お復しやうの大層嬉しいなり。謙に申請し申す所
また、お整理を志すの事、此處所にて行なう
田舎の廻道と参りやうを早速申す
申すの事

高野一平氏

歩兵第1大隊本部要員として、今と新
動と共に出る。二〇年九月十四日、病弱を以て、患
収容計に収容され、(場計名不明)ホントウに
道五六に附近大カヤン?と記憶して居ります
(患名不明)と述べる。と記憶して居ります
と記憶して居ります。と記憶して居ります。
戦中は、フランク山附近に居り、(バラエサ峠)
右の患名収容計に収容され、患名は「名」
生還して居ります。と記憶して居ります。と記憶して居ります。
前念の存収容。名と患名と親電路。と記憶して居ります。

患部

右側容斗に斗の肩は米を収容するに付

す。一右側容斗は果樹の山で米を

指すに付、米の山を収容するに付

は、米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

米の山を収容するに付、米の山を

しきりていふ知うきお同志になつたので戦友か
知うてやうとあつたやうな東洋戦友で
音計(マニラ)の先を告げる通知の東洋はよい
か要は直ひき

の遺族は太の戦友と書いて
生還の見し前の方官の平紙とかも個人として
出している様には感じしてはいます
と田舎の親にねておまの帰るしきりて
状態では或は記憶遠かあるのし
は曜日ですると云頭がなす
知小す

首都の部合

- 1. フロム山バラサ峠に於て終る
- 2. ホントの御道 五六に附近大カマヤン? 奥の山 収容
計の 収容 五六に 収容計 一 マヤカ 一 北サ
一 マニラ(生えねとす水は)

おのり病状と食糧・薬品・本人の氣力よきと患部收
容計に死せしむると思はれる

3.

[Redacted]

ナ年隊長は患部收容計に收容

4.

二〇年五月頃よりマラカ及デングに

おれらに記憶

罹る。遂に禁食状態となり患部收容計
に收容され日室病にある

大取急を以てして申しあげます

年月日

[Redacted]

改

[Redacted]



死亡證明書

昭和二十年九月十五日

本籍地

陸軍一等兵

昭和二十年九月十五日

右ノ者昭和二十年九月十五日 病死ス

場所 比島 ピナパン

元比島威第九九八部隊

分隊長 元陸軍少曹



右ノ原本ト相違ナキコトヲ證明ス

地方世話部

9-10

昭和二十一年九月十五日
陸軍省
陸軍部
陸軍省
陸軍部
陸軍省
陸軍部

26-11

死		軍事要項証明書	
本籍地	[Redacted]		
所属部隊	歩兵第七十六部隊 (特選) 朝鮮羅南朝鮮第五十六部隊		
在官(在)年	加	兵種	同野口別官日
昭和二十一年	歩兵	要長	[Redacted]
死に年月日	昭和二十一年九月十五日		
死に時刻	午前四時三十分		
死に場所	比島北部ルン トツカン		
死に原因	病死		
死に患中	病名 マラリヤ		
死に患名	昭和二十一年九月十四日入院		
死に患の詳	不明		
死に患の詳	本人終戦前ヨリマラリヤ病ニテ過度ニ衰弱シテ 九ノ月十四日虎兵團第四野戦病院ニ入院セルモ過度 衰弱シテ翌十五日遂ニ死亡ス		

その通り相違なき事と認明する
昭和二十一年九月二十四日

本籍地 [Redacted]
 現住所 [Redacted]
 元所属部隊 歩兵第七十六部隊
 陸軍要項証明書 [Redacted]

戦歿者確認(證明)書

- 一、死歿者所屬部隊名(通稱號) 成中一六〇九部隊
- 一、徴集年 一五 役種 兵種 歩兵
- 一、官制(死歿前) 兵曹上(死歿後)
- 一、氏名 [Redacted] 年 [Redacted] 月 [Redacted] 日生
- 一、死歿場所 火島ルン島エスエスハニニ山中
- 一、死亡区分及事由 マリヤ侵襲(戦病状) (確認)
- 一、死歿年月日時 昭和 二〇 年 九 月 中 日 午 時
- 一、死歿者本籍地留守番者 [Redacted]

右確認(證明)ス

昭和 二〇 年 八 月 二〇 日

元所屬部隊名 成中一六〇九部隊
現住所 [Redacted]
元官制 兵曹上
氏名 印 [Redacted]

註 死亡事由、場所ハナルベククワシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナッダ者ハソノ前後ヲ
クワシク告知ラセ下サイ

宛 先

[Redacted]

諸君 謹啓

生部第一世活佛

昭和二十二年六月廿四日

者製調

○本表の中、○の欄以外は第一世話課にて記入すること。
○記帳上の注意並に股懸欄は裏面にあり(記帳上の注意をよく読んでから記大の事)。
○不備事項中判明しあるものは各班にて朱筆すること。

昭和二十一年 月 日 公第 號

地方世話部 死亡者 認定票

昭和二十一年 月 日 防 調 防 防



所屬部隊名		同一名		第一三四兵隊		通稱名		一威		四〇四七		
本籍地		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		
年	昭	昭	9.	租	一補	種	兵	種	衛生	級等官	前亡死	
死亡年月日時	昭	20	9.15	17	昭	20	9.15	死亡場所	比島中郡比島南平子口北西村	死亡原因	戦傷	
死亡原因	戦傷		北		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
現住所	[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
守者	[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
認定	石現認		遺骨状況		無		氏名		[Redacted]		[Redacted]	
料資	第百兵站病院		陸軍主計長		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
料資	[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
手入	[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
判	官給		給		給		給		給		給	
決	給		給		給		給		給		給	



証明書

イ 第 一 部 隊

大正八、九年

戦死

三一年

右ノ者ルン島トツカン山中第二アレツク
南方第七四兵站病院ニ於テ昭和三十一年
九月十五日朝病死セリ

右の通りニ相違ナキコトヲ証明ス

イ 一五三 部 隊

昭和三十一年
九月九日 復員

現住所

証明者

昭和三十一年
三月廿九日

為 憑 者

印

戰死證明書

一、戰死者本籍地

戸主名 戦死者主 本人

氏名

年 月 日生

二、所屬部隊名

第 五 十 五 部 隊

三、戰死者徵集年 昭和 年 月 日

四、戰死年月日時及場所

五、戰死現認ノ程度

六、遺骨歸還ノ有無

七、戰死當時ノ状況ノ概要

八、死ニ區分

九、其ノ他

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

昭和 年 月 日

戰死證明書

一、戰死者本籍地

戶主名職別 戶主

出

年 月 日生

一、所属 固有部 度名

城 鳴 派 通 鐵 計 三 聯 隊 木 部

三、**最著勲業** 大正 **15** 年 **役種** **現役** **兵種** **歩兵** **死亡前官級** **陸軍中尉** **手明** **昭** **和** **壬午** **十一月** **四**

四、歿年^ノ月^ノ日^ノ時刻及場所 昭和二十九年九月十六日 品川区大井町 比奈巴カン

五、戰死現認ノ程度 死亡確認

六、遺骨歸還、有無 代骨飯量

七、戰死當時之狀況、概要

本
 著者當時經國後方都府屋之糧糶確保爾後都府追及ス
 作備之
 昭和三年九月十一日
 再經(唐美官實源二書)

死因圖分類：傳染病 事由：肺炎 發病年月日：昭和 年 月 日

九、其他（上院議員、於テクダシトモ、依テ立カ、都下家野野理班、申立テ、上院年月日及上院始

佐信於取之實業中

10. 遺族、現住所

戰死者上ノ額柄 ⑤

氏名

右ノ通り戦死セシタルコトヲ證明候也

昭和二十五年 月 十一 日

醒明耆住所

戰死者下關係

所屬部類名

兵種 步兵 官等 陸軍 步兵

氏 知

市町村長證明箇所

1/1 桐油 十斤 200 2

$\frac{d^2y}{dx^2} = \frac{dy}{dx}$

又將時子推看

五

戰死證明書

一、戦死者本籍地

戸主名 姓 名

氏 名

年 月 日生

二、所属部隊

北島派遣隊 第五四七部隊

三、戦死者役年

昭和 年 月 日生 役種 現役 兵種 歩兵 死亡前官等 陸軍 少佐 昭和 年 月 日

四、戦死年月日時刻及場所

昭和 年 月 日 時刻 午前 時 分 場所 北島宮本島 三ノ木地区

五、戦死現認ノ程度

後方部隊下三名に報告

六、遺骨歸還ノ有無

有

七、戦死當時ノ状況ノ概要

敵機襲撃中

八、死亡区分

戦病死

事由 肺炎 発病年月日 昭和 年 月 日

九、其ノ他

（戦死者ノ死亡證明書ニ於テ中立的ノ事項ヲ記載スルハ必要ナシ） 申立書ノ上陸年月日及上陸地

一〇、遺族ノ現住所

戦死者トノ親類

氏 名

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和 年 月 日

證明者住所

戦死者トノ関係

所属部隊名

兵種 歩兵 官等 陸軍 少佐

氏 名

市町村長證明箇所

印

死亡事實(現認)證明書

本籍地

現住所

所屬部隊 第一航空司令部

徵集年

官等級
氏名

右ノ者昭和二十年九月十一日二時

二十一分 比良ニ於テマラリヤニ依リ戦傷

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十年四月十六日

所屬部隊 第一航空司令部
氏名 工平

官等級 佐官
氏名

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等列明シアルモノハ證明ス
二、職名ハ中・小隊長、班長、班長等ト證明ス

19-13

11-96

戶主名 職柄 戶主

氏名

年 月 日生

二、所屬

派遣 第五回 七都殿

三、戰死者徵集年四十四年，役種補給兵，死亡前官等，陸軍部，在官遇難，昭和十年七月一日。

四、戰死年月日時刻及場所 昭和三年九月廿一日九時，北邊分隊幸新太夫山。

五、戰死現認ノ程度同部隊勤務ニテ氏有初ヨリ居住三ノ七旅、

六、遺骨歸還、有無無病死已之病下、測知

七、死傷時之狀況、概要

八、死亡區分：戰時死亡事由：受性多發病年月日：昭和三十年九月五日

九、其他（上陸地ニ於テ死亡者數ニ依リ申立ル。都府廳縣支庁及市街ノ不附屬地入中立洲ナレバ上陸年月日及上陸地

一、遺族、現住所

戦死者トノ追悼

氏名

右ノ通リ戰死セラレタルコトヲ證明候也

昭和二十五年一月二十日

證明者住所

戰死者上 關係戰友

所屬部 隊 名

兵種 裝備官等級 陸軍武官 陸軍武官

氏名

市町村設置明細所

19

平定縣志卷之三
光緒二十三年八月三十日

證明書

本籍地 [redacted]

戦病病死當時、部隊名

比島派遣隊第八五部隊 [redacted]

陸軍大尉 [redacted]

右、昭和二十年九月十七日比島、イノ南方十五軒、地
兵ニ於テ赤痢、為戦病死セルコトヲ確認ス

右證明ス

昭和二十二年四月十六日

本籍地 [redacted]

現住所 今在

比島派遣隊第八五部隊

陸軍中尉 [redacted]

死亡事實(現認)證明書

本籍地

現住所

所属部隊 第1航空隊司令部

徵集年

官等級
氏名

右ノ者昭和二十年九月二十日 三時

十五分 比島 二於テマリヤニ依リ戦傷

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十年四月二十日

所属部隊 第1航空隊 職名 技手補

官等級 初任 待遇

氏名

註 一、死亡地點、受傷部位、病名等列明シタルモノハ詳記ス

一、職名ハ中・小隊長、班長、操縦手等ト詳記ス

（封入）

21-12

明書

附位現

精

名氏

明張公時澄院

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

1A23

死 亡 事 實 證 明 書

本籍地				
所屬部隊固有名	東信第三大隊	通稱號	威和三五三新隊	
階級 (任官年)	役種	兵種	死亡前(官等級) (同録令年月日)	氏名
				(生) 年 月 日
昭和三十二年六月十九日	歩兵	上等兵		
留守住所	本籍地 二丁目			
擔當者	親類氏名			
死亡年月日時	昭和三十二年六月十九日	死亡區分	戦死	死亡場所
死亡事由	北島カミヤ地区中ノガリ			
病死	昭和	發病入院		
後時	昭和			
要否	遺骨	遺留品		
状況	昭和三十二年六月十九日、本籍地より西へ向かい山の中を歩いていたところ、突如として敵機の攻撃を受け、命中した。直ちに倒れ、重傷を負った。周囲には味方の隊員が数人いたが、混乱の中で救助を受けることができなかった。翌朝、発見された。			

右の通り相違なきことを證明する

昭和三十二年六月十九日

本籍地 [redacted]

(現住所) 同左

元所屬部隊 東信第三大隊

階級氏名印 下等兵長 [redacted]

3-12

死に現認 認証用書

死 亡 現 認 (確) 証 書



裏面記載上の注意を見て書いて下さい (※及び裏面の各欄は記載に及びません又書き方がわからない点がありましたら遠慮なく調査官に聞いて下さい)

資 料 提 供 者		死 亡 現 認 証 書					所 属 部 隊		本 籍 地		現 住 所		死 亡 時 状 況	
法 方 法 知 者	死 亡 現 認 証 書	遺 留 品 理 由	遺 骨 及 遺 骸 理 由	死 亡 区 分	発 病 時	傷 病 名	死 亡 場 所	死 亡 日 時	内 容	確 度	種 兵 種 役	名 氏	年	月 日 生
死 亡 現 認 証 書	死 亡 現 認 証 書	現 地 理 由 (遺 骨)	現 地 理 由	死 亡 区 分	死 亡 時	死 亡 場 所	死 亡 日 時	死 亡 日 時	死 亡 時 状 況	確 度	種 兵 種 役	名 氏	年	月 日 生
死 亡 現 認 証 書	死 亡 現 認 証 書	現 地 理 由 (遺 骨)	現 地 理 由	死 亡 区 分	死 亡 時	死 亡 場 所	死 亡 日 時	死 亡 日 時	死 亡 時 状 況	確 度	種 兵 種 役	名 氏	年	月 日 生
死 亡 現 認 証 書	死 亡 現 認 証 書	現 地 理 由 (遺 骨)	現 地 理 由	死 亡 区 分	死 亡 時	死 亡 場 所	死 亡 日 時	死 亡 日 時	死 亡 時 状 況	確 度	種 兵 種 役	名 氏	年	月 日 生

確認書

本籍

部隊名

階級

氏名

戦死(遺体) 戦病死

戦死

場所

昭和三年九月二十一日午後六時頃
北部ルソン島 イガラオ(米軍敗走所)

確認者

比島第百三十九兵隊 戦死

陸軍衛生部長

現住所

死之證明書

陸軍歩兵長

年月日生

死之場所

シイ三島才一収容所於之

戦病死す

死之年月日

昭和二十一年九月二十四日午前九時頃

右證明書

九海軍少将三教三付九一跡駈渡
特務艇乗組員水兵長
現任可

年月日生

死亡事實(現認)證明書

本籍地

現住所

所屬部隊

徵集年

右ノ者昭和二十年

三十分

痛死シタルコトヲ證明

昭和二十年

所屬部隊

職名

氏名

[Redacted]

通稱名 杉 第四二二部隊

氏名 陸軍軍曹

[Redacted]

九月二十一日午前九時

於ラ戦場ニ戦傷

證明(現認)

昭和二十年五月二十一日

職名 歩兵

官等級 軍曹

[Redacted]

[Redacted]

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等列明シアルモノハ詳記ス
二、職名ハ中、小隊長、砲手、操縦手等ト詳記ス

91-68

1828

病死 續報 志書

唐如 長 版

第十中隊長

等收代名

陸軍 陸軍



死亡年月日

昭和五年九月一日

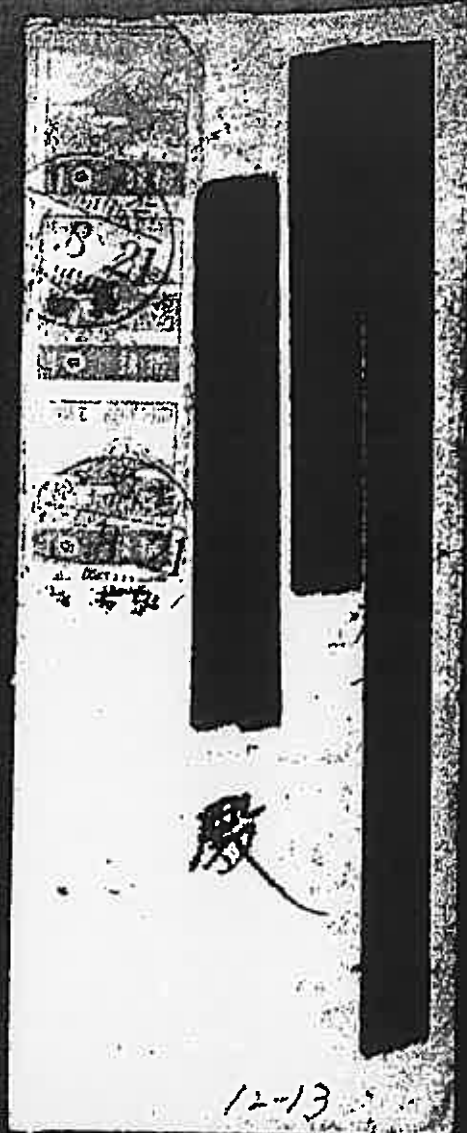
死亡場所

マリア

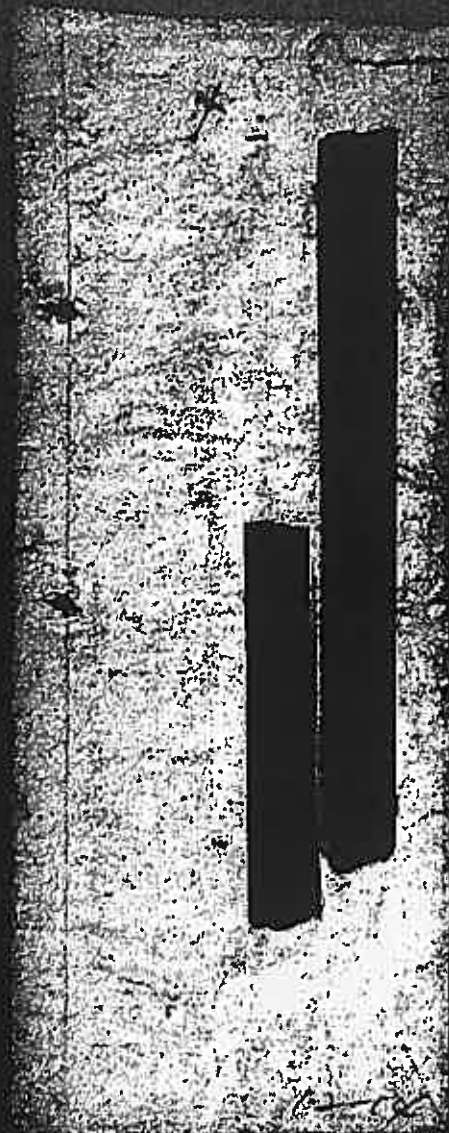
死亡

小原 宿舎

12-11



12-13



昭和二十二年一月一日

出 版 社

庚午六月二日

10

天竺

城。

Figure 6.

備考
一
及死屋
七
の
世定
話のは
見
のが
流
印
を
必
上
る
合
には

此

本籍地
所屬部隊

後其年

現認證明書

南方軍路戰貨物廠

(威第...六三部隊)

陸軍經技准尉

(五月...)

陸軍經技准尉

(五月...)

死亡年月日

昭和三十年九月二十日

米軍收容所内病院

死亡場所

戦病死

(榮養失調)

死亡状況

台正に現認し證明す

昭和三十三年三月十七日

現認者

所屬部隊通称號(南方軍路戰貨物廠)(威第...六三部隊)

現住所

旧職官等級(姓名)

陸軍主計大尉

107-15

戦歿者確認(證明)書

- 一、死歿者所屬部隊名(通稱號) 威第十六九部隊
- 一、徵集年 昭和十五年後編 二回 兵糧輸重兵
- 一、官等(死歿前) 一等兵 (死歿後)
- 一、氏名 [Redacted]
- 一、死歿場所 前線 [Redacted]
- 一、死亡區分及二事由 終戦後 [Redacted]
- 一、死歿年月日時 昭和十五年九月二十日 午後 [Redacted]
- 一、死歿者本籍地留守遺族者 [Redacted]

右確認(證明)ス

昭和二十二年四月一日 日
 元所屬部隊名 威第十六九部隊
 現住所 [Redacted]
 元官等級 陸軍少佐
 氏名印 [Redacted]

註 死亡事由、場所ハナルベククワシク特ニ終戦後死亡ハ明確ニ生死不明ニナシタ者ハソノ前後ヲクワシク告知ラセ下サイ

宛先

地方世話部慰恤係

死亡事實(現認)證明書

本領地

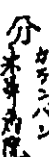
現住所

所屬部隊  司令部

徵集年

官等級
氏名 

右ノ者昭和二十年十月四日三時

シッ分  ニ於テマリヤニ依リ戦傷

病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和二十年四月三日

所屬部隊  職名  補

官等級  氏名 

氏名

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等明シアルモノハ證明ス

二、職名ハ中・小隊長、班長、操縦士等ト證明ス

(封入)

20-12

戦歿者確認(證明)書

- 一、死歿者所属部隊名(通稱) 成兵隊
- 一、戦死年月日 昭和二十一年八月二十日
- 一、死歿場所 前線
- 一、死亡原因 敵機攻撃
- 一、死歿年月日時 昭和二十一年八月二十日 午後二時
- 一、死歿者本籍地 埼玉県

右確認(證明)ス

昭和二十一年八月二十日

元所属部隊名

成兵隊

現住所

埼玉県

元官職

兵隊

氏名

田中

註 死亡理由、場所ハナニテ死亡シタルハ、戦死ニシテ、生後不慮ニナクテハソノ前後ヲ

シテ、死亡シタルヲ知ラセテ下サシ

宛 先

地方世話部慰恤係

死亡證明書

所屬部隊 威機五十一部隊

等 陸軍公曹

官 氏名

本籍 地名

留學地 姓名

死年月日

同場所

死因

備考

昭和三十年十月十五日

北島

戦傷死

戦死

戦死

戦死

戦死

戦死

戦死

明

若

本籍地

所屬部隊

陸軍軍曹

被為一等兵

陸

陸

陸

2-13

戦死証明書

一、戦死者本籍地

戸主名額柄

戸主

氏名

年 月 日生

二、所属部隊

比島派遣隊 第一二二四部隊

三、戦死者役職

大 年 役種 予役 兵種 歩兵 死亡前官等級 陸軍上 年月日 昭和 年 月 日

四、戦死年月日時

昭和二十二年十一月十五日 比島ミナオアグササグサ

五、戦死現認ノ程度

乙 既死ノ状態ニ於テハ死ト推定ス

六、遺骨歸還ノ有無

帰還ノ見込アリ

七、戦死當時ノ状況ノ概要

栄養失調

八、死亡区分

戦死 事由 栄養失調 発病年月日 昭和 年 月 日

九、其ノ他

（上陸後ニ於テ死亡者ニ限リ、中ニ、部隊長等ノ死、又ハ不明等ノ死入部） 申立書ナシトシ、陸年月日及上陸地

二、遺族ノ現住所

戦死者ノ額柄

氏名

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和二十二年 二 月 二 日

証明者住所

戦死者ノ関係

所屬部隊名

比島派遣隊 第一二二四部隊

兵種 歩兵 官等級 陸軍 年月日

氏名

市町村長證明箇所

右ノ通り相違ナキコトヲ證明ス

昭和二十二年三月十七日

戦歿者確認(證明)書

- 一、死歿者所属部隊名(通稱) 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 一、従軍年 〇〇年 〇月 〇日 役種 補丸 兵 〇〇年
- 一、官等(死前) 〇等 〇等 (死後)
- 一、氏名 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇年 〇月 〇日生
- 一、死歿場所 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 一、死亡区分 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 一、死歿年月日時 〇〇年 〇月 〇日 〇時
- 一、死歿者本籍地留守担当者 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

右確認(證明)ス

昭和〇〇年 〇月 〇日

元所属部隊名

〇〇年 〇月 〇日

現住所

元官等級

氏名印

注 死亡理由、場所ハナルベククシテ特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナラズ者ハソノ前後ヲシラシク告知ラセ下サイ

宛先

地方世話部慰恤係



死亡現認證明書

昭和22年 7月 25日

死者		現認		事由		記載上の注意							
所屬	國有各飛行隊甲五戰隊第三中隊	遺留品	ナシ	遺留品	ナシ	一 現認事由は死亡當時の状況に基き詳細に記入する	二 確度(甲は正確、乙は概略正確、丙は概略不正確)を必ず記入する(昭和22年7月)	三 氏名の下に捺印を忘れぬこと	四 故人の同僚や中隊長、分隊長、戦友、或は人年録等記入				
本籍地		死亡前の階級	陸軍軍曹	死亡場所	レイテ島タクロバン飛行場	元所屬	國有各飛行隊甲五戰隊第三中隊	現住所	同右	本籍地		通稱	飛行場第四十五戰隊本部
死亡年月日	昭和22年 7月 27日	死亡原因	生死不明	受渡箇所		氏名		階級及故人名	元陸軍軍曹長 戦友				

66-12

死亡事實現認證明書

本籍地

現住所

所屬部隊 威勢第三〇三〇部隊

召集年 昭和三十五年 氏名 陸軍兵長

右ノ者昭和三十年十一月三日 七時
三十分 於テアメリヤニ依リ戦傷
病死シタルコトヲ證明(現認)ス

昭和三十年十一月三日

所屬部隊 職名 中隊筆生

威勢第三〇三〇部隊 官等 陸軍兵長

氏名

注意 一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シアルモノハ詳記ス
二、遺名ハ中、小隊長、砲手、探照手等ト詳記ス

8-11

1843

現認證明書

本籍地	現
所屬部隊	威一五九一部隊
官軍級次名	陸軍上等兵
發病場所	
受傷年月日	
病傷名	比島中サバブ東方五村マニ東方八村、山中
死七場所	死
死七通令	昭和三十年十月七日
摘	
右現認	威一五九一部隊
陸軍部長	

5-11

昭和三十九年五月十日	上等兵
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊
昭和三十九年四月廿六日	比島孤遺 豹ニニニ部隊中隊

165-10

屋主名錄

魚州

五

年 月 日生

序	所屬	國有部 院名
1	...	...
2	...	...
3	...	...
4	...	...
5	...	...
6	...	...
7	...	...
8	...	...
9	...	...
10	...	...
11	...	...
12	...	...
13	...	...
14	...	...
15	...	...
16	...	...
17	...	...
18	...	...
19	...	...
20	...	...
21	...	...
22	...	...
23	...	...
24	...	...
25	...	...
26	...	...
27	...	...
28	...	...
29	...	...
30	...	...
31	...	...
32	...	...
33	...	...
34	...	...
35	...	...
36	...	...
37	...	...
38	...	...
39	...	...
40	...	...
41	...	...
42	...	...
43	...	...
44	...	...
45	...	...
46	...	...
47	...	...
48	...	...
49	...	...
50	...	...
51	...	...
52	...	...
53	...	...
54	...	...
55	...	...
56	...	...
57	...	...
58	...	...
59	...	...
60	...	...
61	...	...
62	...	...
63	...	...
64	...	...
65	...	...
66	...	...
67	...	...
68	...	...
69	...	...
70	...	...
71	...	...
72	...	...
73	...	...
74	...	...
75	...	...
76	...	...
77	...	...
78	...	...
79	...	...
80	...	...
81	...	...
82	...	...
83	...	...
84	...	...
85	...	...
86	...	...
87	...	...
88	...	...
89	...	...
90	...	...
91	...	...
92	...	...
93	...	...
94	...	...
95	...	...
96	...	...
97	...	...
98	...	...
99	...	...
100	...	...

七鳥派遣

堅者

第 三 集

遊

三、戦死者数集年昭和6年役種補給兵種歩兵死亡前官等級陸軍少佐任官電報年月日昭和六年七月一日

四、**■**死年月日時刻及場所 ソノ島バタダヌ洲ロニ世ハナス、 昭和十九年十月十二日。

五、戰死現認ノ程度推定

六、世有補國之有無，無

七、觀音寺ノ狀況ノ概要

[illegible]

八、死亡區分

九、其 他 (上陸地 於テ死亡者 死者 使テ 中立ニ 都度 發生 証、) 申立 濟ナシ 上陸 年月日 上陸 地

五

后，重慶人現生所

番

戰死者下ノ痕柄 廿七

氏 名

右ノ通り戰死セラレタルコトヲ證明候也

昭和三十三年 四月十六日

聰明者住

死者上，關係國防隊高級士官

所屬部隊名氏遺囑捐世集園

乐雅

宣統元年

氏 名

故

市町村長・明箇所

右證明天

昭和廿年八月廿日

1848

魂認證明書

通稱

固有

死者
本籍地
通稱
固有

死者
本籍地
通稱
固有

死者
本籍地
通稱
固有

死者
本籍地
通稱
固有

死者
本籍地
通稱
固有

死者
本籍地
通稱
固有

死者
本籍地
通稱
固有

死者
本籍地
通稱
固有

死者
本籍地
通稱
固有

死者
本籍地
通稱
固有

戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所属部隊名(通稱) 威 百六十九部隊

一、徴集年 昭 十七 役種 歩兵 兵種 歩兵

一、官位(死後勲) 上 等 兵 (死後授)

一、氏 名

一、西武野郎 南ルンボシコ

一、死因(死後分位) 事由 本シコ河原河の岸に戦死

一、死後年月日時 昭 十七 年 十二月 十三日 才夫時 丑

一、死後遺本籍地留守担当者

右確認(證明)ス

文

昭和 年 月 日

元所属部隊名 威 百六十九部隊

現 住 所

元官位 陸軍 兵 長

氏 名 印

註 死亡事由、場所ハ本シコ河原河の岸に戦死後死亡ハ明細ニ生死不明ニナツタ者ハ之ノ前後ヲ

タラシク知ラセテ

館 先

地方世話部 慰恤係

認定

昭和 年 月 日

死亡事實現認証明書

本籍地

現在所 在日

所屬部隊 威勢第二二三部隊

召集年 昭和十七年 氏名 [REDACTED] 官等級 陸軍少長

右ノ者 昭和三十一年 一月 日 時

分^{ミタ}タルコトヲ^{シタル}証明^ス (現認) ス
分^{ミタ}タルコトヲ^{シタル}証明^ス (現認) ス

昭和三十一年 三月 日

所屬部隊 威勢第二二三部隊

氏名 [REDACTED] 官等級 陸軍少長

氏名 [REDACTED]

氏名 [REDACTED]

注一、死亡地點、受傷部位、病名等判明シタルモノハ併記ス

注二、職名ハ中、小隊長、砲手、探照手等ト併記ス

37-10

本籍地
遷住所

合右

所屬部隊名

陸軍

官等級

陸軍(定之前)

威五三部隊

死亡場所

フィリピン・レイテ島 米軍収容所内病院

区分

戦病死

日時

昭和二十一年三月三日

傷(病名)

マリアヤ第榮養大調

留守担当者住所

續柄氏名

長男

古證明す

昭和二十一年二月二日

住所

在所屬官氏名

海軍第十七魚雷調整班

海軍一等航海士曹

印

賊殺者儼然

[illegible]

一、氏名

一、死後場所 ミナト大島ガ下アガ洲 シフコ

六死七區分之事由之民、在州に銃劔を八頭部員通銃劔創に成

死役年月日時間 昭和三年四月十七日 不詳

一死歿者不藉他留守墓當者

正確證明又

昭和三年三月二十五日

元所馬部隊名 成 第之六三部隊

現生所

元官等級 矢長

姓名

蘇氏家譜

死に付る

戰死證明書

一、戰死者本籍地

戸主名續柄

戸主

氏名

弟

二、所屬

固有部隊名
通稱部隊號

比島

派遣隊
第五三一部隊

隊

三、戰死者徵集年

昭和16年

役種現役「兵種」航空兵

死亡前官等級陸軍少佐

任官進級昭和十五年三月一日

四、戰死年月日時刻及場所

昭和十五年五月一日

佐々木島

不ガ口入島

五、戰死現認ノ程度

死体確認

六、遺骨歸還ノ有無

無

七、戰死當時ノ狀況ノ概要

爆撃機に撃墜され、衛生材料不足

年 月 日生

6-12

（市立濟ナ）上陸年月日及上陸地

戰死者卜ノ續柄

氏名

右ノ通り戰死セラレタルコトヲ證明候也

昭和二十二年四月十四日

證明者住所

戰死者トノ關係

所屬部隊名

同年兵戰友

以豐雅遺戚新瑞
一五五二

兵種 技術 官等級 陸軍 伍長

氏名

查

市町村長證明箇所

拜復

今日御手紙拝見致しました

花も愈々盛りとなり花見も所々で催されて

居ることも新聞紙上にて見ますかきぞ

振うてゐることを思います

小生も昭和四年兵隊

にまよして八年振りに帰て参り世状の違つたの

に全く困て居り時々南方みやううまみやうに再会

せられ就職もせず家に引こもつて居ります

スミ

戦局愈々悪化し部隊もマラより北上北都ルン
に位置し飛行機一機も無く飛行機を領のため二機
分の搭乗員は帰國致しましたか遂に我々はナノ創下
を名北島に残り五月末より山中に入り生活として居
りました山中生活は非常に元気で斬込みとなるのは
一番にうて出られて居りました

昭和二十年終戦九月山降マラ收容所に收容され
其の間如何に元氣な者でも作業力大に上に給

無理と云ふ。收容所病院入院せられ、戦死として
金、申し合ひない次第であります。が遂に亡くなられた。

昭和三年七月二三日

小生と

してのふく、帰る参り御遺族様に対して御報

をすること、躊躇致しました。が、それではかへって

英霊に對し申し合ひなく、又、少くも愚兄の事を考へますと

いふ事、事がある、御傳へ申上げたいわけであり

ます。

昭和十四年以來帰郷致した事もなく一度帰郷した
思つて存りますか。何分病氣ばかりして存りましては
思ふ様に出来ず、就職にも出来ず、様になれは
帰郷する者（であります）
先ずは御通知にて

氣候不順お身体をお大切に
養生様におくれぐれも宜敷く御伝へ下さる

四月五日

殷

57-10

戦歿者確認(證明)書

- 一、死歿者所屬部隊名(通稱號) 第一大隊 五郎隊 (一〇三飛場大) 三
- 一、徵集年 昭和 現没 兵種 衛生兵
- 一、官等(死歿前) 兵種 (死歿後) 不明
- 一、氏名 比津清一 生 年 月 日
- 一、死歿場所 比津清一 生 年 月 日
- 一、死亡原因分岐ニ事由 昭和 年 月 日
- 一、死歿年月日時 昭和 年 月 日
- 一、死歿者本籍地留守擔當者 妻 氏 不明

右確認(證明)

昭和 年 月 日

元所屬部隊名 現住所 元官等級 氏名印

註 死亡理由、場所ハナルベククワシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナツタ者ハソノ前後ヲクワシク告知ラセ下サイ

宛 先

地方世話部慰恤係

事實
死亡證明書

本籍地

所屬部隊 飛行第二戰隊
(通稱號) 威第264部隊

昭和二十年徵集 陸軍准尉

右ノ者 自昭和

昭和二十年九月

月十九日

間比島

ニ於テ勤務

シ昭和二十年

月

日北島ルン島

ニ於テマヨヤ及赤利ニ

ヨリ同クマン州ワロー

ニテ昭和二十年九月

月十二日死シタル

コトヲ證明ス 戦務

昭和二十一年十月二十九日

調製官

陸軍中尉

飛行第七十三戰隊附

3-10

戦死証明書

一、戦死者本籍地

戸主氏名横柄 戸主

三男

氏名

年 月 日生

二、所属 固有部隊名
通稱部隊名

派遣部隊第二戦隊部隊

隊

三、戦死者徴集年 昭三十二年 役種 現役 兵種 歩兵 官等級 陸軍曹長 任官進級 年月日 昭和 年 月 日

四、戦死ノ場所及年月日時刻 比島、カウヤン、ラ、収容所、昭和三十一年九月十五日十時三十分

五、戦死現認ノ程度 戦病死、後枕頭アリテ立會ス

六、遺骨歸還ノ有無 ナシ

七、戦死當時ノ状況ノ概要

修戦直前、突病シ、修戦後益々重態トナリ、収容所入所ス(九月五日)

在米、修戦直前、突病シ、九月五日頃、病状が激化シ、腹意ヲ傳スヨリ、一日十数回、

凡 死 亡 區 域 補 償 金 申 請 書
九、其 他 (上 陸 地 区 於 死 亡 者 遺 族 申 立 方、部 隊 補 償 金 申 請 書、
幹 部 等 之 補 償 金 申 請 書、整 理 定 義、又 不 明 等 配 入) 申 立 済 ナレバ 上 陸 年 月 日 及 上 陸 地

部 隊 於 於 整 理 スル モ ト 思 付 セ ラ ル、モ 不 明 ナリ

一〇、遺族ノ現住所

[Redacted]

戦死者トノ續柄

父

氏名

[Redacted]

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和二十一年 九月 二一日

證明者住所

[Redacted]

戦死者トノ關係

入院ノ際 同室ニ收容サル

所屬部隊名兵種

飛行第七十三戦隊

官等級陸軍

中尉

飛行兵

氏名

[Redacted]

印

市町村長證明箇所

右ノ通り相違なき事を證明致します

昭和廿一年拾月拾貳日

[Redacted]

陸

軍

寫

3-16

3-15

本籍地

所屬部隊

官名

陸軍 死亡前 少尉

役種

死亡年月日時

死亡場所

死亡原因

遺骨の有無

遺族現住所

昭和三年

相違無

昭和三年

現認者

支隊 排員長 高尾

死	亡	者	現	認	看
官年級氏名 本籍地	死亡年月日 死亡区分 死亡場所	傷病名 遺棄遺留品状況	現認事由	所属部隊名 官年級氏名	現住所
成子立二部隊 救護看護婦	昭和三十二年十月十日 野病死 比島病院に於て一收容所	マツリヤ（昭和十三年に於て） 遺棄時金通符留手金に属する	口收容所より看護士に死を以て報告したる	成子立二部隊 看護婦	昭和三十二年三月七日

也
止
部

事無不一

舊所商部
舊所商部
舊所商部

此書係
清康熙
丁巳年
刻本

死亡確認書

7-12

局区内
郵便局

證明書

改陸軍備人

右は昭和十一年四月一日第四師破滅後、微傷せられ無傷部隊改編により第三
船舶輸送司令部七支隊本部が改陸軍備人として引き続き勤務中であること
昭和十一年七月市川糧秣隊緊急輸送作戦に参加中、市川を以て加高原に
於て敵機の爆撃を受け、胸部に受けた傷が癒え、改陸軍備院に入院す。
爾後病院に在りて治療を圖りたゞ是者は戦線粉砕のため、単独退避
せられ、たゞのみ消息不明なり、然終戦後米軍収容所に於て加高原中
なるを現認せり。

昭和十一年十月一日

第三船舶輸送司令部七支隊本部が改陸軍備人として引き続き勤務中であること

此為... 元... 部... 官...

當... 部... 元... 官... 部... 官... 部... 官...

此... 部... 官... 部... 官... 部... 官...

此... 部... 官... 部... 官... 部... 官...

此... 部... 官... 部... 官... 部... 官...